

評価実施年度	令和 5 年度	学校名	大分県立 三重総合 高等学校	
学校教育目標	豊かな人間性や確かな学力、体力を養うことで、自己の将来に希望を抱き、高い誇りと困難に打ち克つ強い心を備えた、地域活力の原動力や地域社会の担い手となる人を育てる。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	・良い。 ・校長のリーダーシップの下、管理職のマネジメントにより教員が動きやすい仕組みが構築されている。 ・目標(ゴール)を明確化することにより、現実的に一人一人の行動に反映されると思われる。 ・教職員全員で話し合える機会を多く持ち、常にゴールの共有がなされると良い。	○分掌主任を中心に、目標を全職員が共有できるようなさらなる工夫 ・運営委員会の活性化 ・定期的な分掌会議の設定 ・職員会議の在り方の検討
	P D C A サイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどP D C A サイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	・良い。 ・卒業生や保護者へのアンケート実施により貴重なデータ収集がなされている。 ・次年度の教育活動や学校が持つ魅力の効果的なアウトプットの材料として有効に活用することが望まれる。 ・アンケートの設問について、具体的な生徒の様子等がイメージできるものとなるよう、再度検討が望まれる。 ・各種行事等において、PDCAの「アクション」について具体的な提案がなされるとなお良い。 ・次サイクルの計画に確実につなげるために、常に検証がなされ改善していくことが重要である。	○PDCAサイクルチェック後のアクションを意識した取組 ・分掌間の連携を測るための工夫と進捗状況の共有 ・行事後のアンケートに基づく、次回実施時の改善点の明確化 ・卒業生、保護者を対象としたアンケートの実施による満足度の測定と分析
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	・極めて良い。 ・神楽部・吹奏楽部をはじめ、生徒が地域の催事に積極的に関わり、「福祉優秀校(大分合同新聞社)」に選出される等の成果を上げている。 ・ホームページの更新や学校だよりの発行を通して、学校の「見える化」が行われ、保護者や地域に開かれている。 ・地域コーディネーター等の活用によって地域との連携がなされている。 ・PTA役員や豊後大野市PTA連合会と連携し、理想とする生徒像や地域の担い手育成に関する情報が共有されている。	○育成したい生徒像の家庭及び地域とのさらなる共有 ・生徒の地域での活動のさらなる充実 ・地域コーディネーターや学校ファシリテーターのさらなる活用 ・豊後大野市PTA連合会等と連携した、小・中・高一貫教育を意識した取組の充実
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	・良い。 ・ICT活用や授業時のマナー指導等、授業改善に一定の成果が見られる。 ・資格・検定の取得率が高く、キャリア教育が進められ学習意欲の向上につながっている。 ・「中高」「高大」連携や出前授業等の多様な取組により、主体的な学びが実践されている。 ・授業力の個人差は大きいと感じる。生徒の学力や学習意欲の向上は教員の授業力にかかっているため、授業改善が生徒の実感としても伝わるよう、指導教諭を中心とした具体的な取組の継続が重要である。 ・入学時に基礎的な学力が身に付いていない生徒に対してはリメディアル教育を実施し、卒業後を見通した基礎学力の定着を図ることが望まれる。 ・生徒の心理的安全性が確保され、しっかりと信頼関係が構築された上で教育活動が行われるよう、生徒との接し方についての指導を徹底する必要がある。	○授業改善スクールプランを意識した、生徒が主体的に学ぶ授業展開の構築 ・「令和の日本型学校教育」の基本となるICTを活用した授業の充実 ・授業における基本的なマナーや学習環境の整備の徹底 ・板書、発問、生徒とのやり取りを工夫・改善した、授業改善プランの実行
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	・極めて良い。 ・いじめ・不登校に対して丁寧かつ慎重に対応することで、一つの事案が解決されている。 ・管理職のマネジメントにより、教職員全体が機能的に関わり、チームによる対応がなされている。	○安全・安心な教育環境の提供 ・日々の生徒への声かけやアンケートの実施による、生徒の実態把握 ・各学期で面接期間を設定し、生徒の変化の早期発見 ・SC、SSWとの密な連携と定期的なケース会議の実施
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	・極めて良い。 ・生徒会との対話を通じた校則の大幅な見直しが行われ、生徒の心理的安全性の確保が図られている。 ・生徒の声から、生徒・教職員間の信頼関係が深まったことがうかがえる。 ・机間に荷物やペットボトル等が置かれており、乱雑な状態の教室が散見された。日常の危険防止だけでなく、防災上の観点からも整理整頓がなされると良い。	○学校安全計画に沿った、安全・安心な学校生活の確立 ・生徒会との対話を通じた、校則の見直し等、心理的安全性のさらなる確保 ・ケガにつながる機械、機器を扱う授業での、安全に配慮した指導 ・危機管理を意識した教育環境の充実
信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	・働き方改革により、業務の見直しやICT活用、部活動顧問等の負担軽減が図られている。 ・学校行事等の目的と効果を分析・精査するとともに、必要に応じたスクラップに取り組み、さらなる業務改善の推進が望まれる。	○生徒と向き合う時間の確保のための、効果的な働き方改革の実施 ・ICTの積極的な活用等により、業務分担を組織的に行う体制の確立 ・分掌組織及び部活動の再編 ・部活動における外部指導者の積極的な導入
	学校課題の解決に向けた取組等	○生徒・教職員・地域が一体となった学校づくり	・令和6年度からの環境土木コース新設等、子ども、地域、企業の期待に応える学校として入学志願者の増加に努力している。 ・職業説明会の開催等が行われ、地域と連携した学びの場が提供されている。	○生徒・教職員・地域が一体となった学校づくりのさらなる取組の充実 ・生徒との対話を通じた、安全・安心な学校づくりの推進 ・地場企業と連携した、地域に必要とされる人材育成
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会を議論の場とすることや分掌会議の定期開催等、管理職と分掌主任等との意思疎通がさらに円滑化されるよう計画されている。 ・地域社会の担い手を育てるために、地域コーディネーターを活用して地場の魅力を理解し、地域の課題や商品開発などの探究学習が積極的に展開されている。 ・「チーム学校」の体制・意識をより確かなものとして、すべての教職員が共有する明確なゴールに向かって邁進するものと期待される。 			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会を議論の場として、ミドルリーダーの力を発揮できる体制を構築する。さらに分掌会議の定期開催や管理職と分掌主任等との意思疎通の円滑化を図る。 ・地域社会の担い手を育てるために、地域コーディネーターや外部ファシリテーターを活用した地域の魅力の理解促進。さらに地域課題や商品開発等、探究学習の充実した展開を図る。 ・すべての教職員が目標を共有できる体制づくりと、「チーム学校」の体制・意識をより確かなものとして、生徒の育成に努めていく。 			